

びわこ文化公園都市将来ビジョン10年間の振り返り

5つの将来像

県内外の人々が

交流

する場

○子どもからお年寄りまでの県内外の人々、生徒・学生、世界の人々が集いつながるエリア

○施設や県民、NPO等による多彩で魅力ある取組が催されるエリア

文化・芸術を

創造

する場

○滋賀の風土が生まれ出し、守り育まれてきた滋賀の美に出会えるエリア

○多様な世代が関わる文化・芸術の創造活動エリア

未来成長へ

挑戦

する場

○知的資源や自然資源を活用した医療、環境、食、新エネルギー等の研究開発エリア

○研究開発に基づき先駆的に事業化を促進するエリア

歴史と暮らしを

紡ぐ

場

○豊かな緑や歴史遺産と地域の誇りを次世代に引き継ぐエリア

○県民等が施設の維持・運営に参画する新しい公共モデルエリア

いのちと健康を

支える

場

○高度・専門的な医療サービスや福祉に関する支援を安定的に提供するエリア

○自然環境に抱かれ癒しとやすらぎを五感で感じる健康・スポーツケアエリア

1. 取組の方向性【短期】

県内外の人々が
交流
する場

文化・芸術を
創造
する場

未来成長へ
挑戦
する場

歴史と暮らしを
紡ぐ
場

いのちと健康を
支える
場

◎利用・参加促進

- 各施設による多種多様な取組が行われ、施設間で連携したイベントも開催されている。
(全施設・関係機関)

○安全性・快適性

- 案内看板の付替(県)
- 歩道照明灯の設置
(県立精神医療センター)
- 石畳のバリアフリー化(公園)
- Park-PFIによる飲食施設設置・公園整備(公園)

○交通アクセス

- 駐車場等の整備(公園)
- 南草津駅からの「接続バス」の運行(立命館大学・草津市)
- 停留所位置の見直し(帝産バス)
- △**駐車場の共有化等の検討**
- △**施設間バスルートの充実**

◎美術館の充実

- R3.6リニューアル
(県立美術館)

△**県内美術館等と連携した
滋賀らしい文化・芸術の創造・発信(美術館・図書館)**

○若者の学びや成長

- 文化ゾーン立地施設が連携した、子供向けイベント・講演会等の開催
(文化ゾーン各施設)
- 児童・生徒・学生の教育支援
・地域出前授業
・学校団体鑑賞
(県立美術館等)

◎研究と事業者ニーズとの接続

- 民間との共同研究施設設置
(立地3大学)
- 産官学連携事業(立地3大学)
- 産業化支援コーディネーター
- インキュベータ入居者支援
(大津市・草津市)

○産業振興につながる研究開発

- 「ウェルビーイング事業」
(心身の健康に関する共同研究)
(立地3大学・県)
- 「CO2ネットゼロ推進事業」
(太陽光発電の面的利用)
(県・立地各施設)

◎歴史資源・樹林地の保存・活用

- 「源内峠遺跡復元委員会」による遺跡の復元・保存
(地域住民)
- 隣接樹林地の保存・活用
(龍谷大学)

○県民等参画の維持・運営

- 地域NPO法人「森の風音」による樹林地保存活動
(地域住民)
- 「学生フレンドリー事業」
(立地大学学生による施設の魅力向上の検討)
(立地3大学・県)

◎健康・スポーツ、医療・福祉エリアの安全性・快適性向上・利活用推進

- 「福祉ゾーンねっとわーく」
(各福祉関係施設)
- 「障害者医療福祉相談モール」設置
(精神保健福祉センター)
- 草津市駅伝競走大会
(草津市・立命館大学)

○災害時の体制づくり

- 文化ゾーン立地施設が連携した防災研修・訓練の実施
- 指定緊急避難場所の指定
(大津市)
- 滋賀県原子力災害拠点病院
- トリアージ棟
(滋賀医科大学附属病院)

10年間の主な実績

【振り返り】

◎利用・参加促進

・各立地施設・機関による様々な連携した取組が行われてきた。

○安全性・快適性

・少しずつ改善されており、今後は、公園内に飲食施設の設置も予定

○交通アクセス

・「施設間の移動手段」「駐車場の共有化」等のさらなる検討が必要

◎美術館の充実

・目指すべき美術館の姿を「リビングルームのような美術館」とし、各種取組を実施
・他の美術館・博物館等とのさらなる連携強化の検討が必要

○若者の学びや成長

・子供向け共同イベントの開催、出前授業などを通じ、文化ゾーン内各施設、各教育機関等との連携は図られている。

◎研究と事業者ニーズとの接続

・各大学、行政機関による研究・企業支援体制が構築されており、研究開発が活発に行われている。

○産業振興につながる研究開発

・今後進められる「ウェルビーイング事業」や「CO2ネットゼロ推進事業」はび文公園都市エリア全体を繋ぐ事業として推進中

◎歴史資源・樹林地の保存・活用

・遺跡の復元等、歴史資源・樹林地の保存・活用が進められている。

○県民等参画の維持・運営
・地元NPOや大学生など県民等の参画による維持・運営が行われている。

◎健康・スポーツ、医療・福祉エリアの安全性・快適性向上・利活用推進

・各種取組により連携強化されてきた。

・市民も参加する各種イベントが開催され、R4.12には「滋賀アリーナ」が完成予定

○災害時の体制づくり

・災害時における互助、共助のあり方については、さらに幅広く検討が必要

2. 取組の方向性【中長期】

県内外の人々が
交流
する場

文化・芸術を
創造
する場

未来成長へ
挑戦
する場

歴史と暮らしを
紡ぐ
場

いのちと健康を
支える
場

【実施された検討】

○地域内外のアクセス性向上に向けた取組の検討

- H26～H27
BRT(接続バス、PTPS等の導入)検討(草津市・滋賀県他)
- H28～H30
大津湖南エリア地域公共交通網形成計画の検討(滋賀県・大津市・草津市他)
- 【検討中】
- 名神高速道路草津PAと連携した拠点整備(草津市・滋賀県他)
- (都)平野南笠線(草津市・県)

○「県立図書館」、「県埋蔵文化財センター」の機能の充実・強化に向けた取組の検討

- 図書館の多機能化の検討
- 文化ゾーン立地施設の連携強化の検討

○産学官金民が連携した研究成果の事業化の促進に向けた検討

- 各立地大学・行政機関・民間による共同研究・創業支援の仕組みの検討(立地3大学・県・市)

○各施設等における新エネルギーの取組促進に向けた検討

- 太陽光発電の面的利用の検討(CO2ネットゼロ推進事業)(県・各立地施設)

○自然環境や医療・福祉施設等の集積を活かした心身の健康維持・増進の促進に向けた検討

- 「心身の健康」に関する共同研究の検討(ウェルビーイング事業)(立地3大学・県)

○災害時における救援、救護、支援等に関するさらなる機能の検討

- 滋賀県原子力災害拠点病院
- トリアージ棟(滋賀医科大学附属病院)

【検討状況・成果】

(○・・・成果 ☆・・・継続中)

- JR南草津駅発「接続バス」の導入(H28.4)
- 大津湖南エリア地域公共交通網形成計画策定(H31.3)

- ロビー等を活動ステージとして提供(図書館)
- 「土曜サロン」(講演会等の開催)(文化ゾーン立地施設)

- 共同研究・創業支援に関する各種制度の創設
- ☆新エネルギー分野での連携強化に向け、今年度は事業可能性調査を実施中

—

- ☆各大学の持つ研究材料やデータの共有等連携強化しながら研究を継続中
- 災害時等の拠点病院として滋賀医科大学の機能強化

【検討未実施】

- 多様な資源を活かした魅力あるツーリズムなど新たな取組の検討

- 滋賀らしい文化・芸術の創造・発信を促進する取組の検討

- 次世代を育成するための取組の検討

- 自然環境や歴史文化など地域の資源を次世代に受け継いでいくための新たな仕組みの検討

- 地域住民やNPO、企業、大学、高校等、多様な主体が参画する協働による施設等の維持・運営を進めていくための仕組み(プラットフォーム)の検討